

発掘新聞

3月22日号

平成25年復活第8号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

ワイルド!!

古墳墳丘の土層を剥ぎ取っちゃったぜ



裏打ちの布を古墳墳丘の土層に貼り付ける作業を行う当館の小林啓技師
=当館撮影

上毛町皿山古墳群1号墳で古墳墳丘の盛り土の剥ぎ取りを実施!

現在当館が行っている東九州自動車道関係の発掘調査で、通常の調査ではあまり実施しない“あること”をこのたび行ったので、リポートします。

それは当館の齋部技術主査が担当する上毛町皿山古墳群1号墳で確認された、墳丘の築造状況をよく示す墳丘の断ち割り土層を、保存科学が専門の当館小林啓技師と加藤和歳技術主査が当館での展示を目指して“土層剥ぎ取り”を実施したことである。

遺構剥ぎ取りは、人為的な盛り土や自然堆積など、遺跡を理解する上では重要な土の堆積状況を薄く剥ぎ取ったものである。当館の第四展示室の遺構展示は、遺構をそのまま切り取ったものなので、「遺構切り取り」と読んで、若干の違いがある。今回の遺構剥ぎ取り作業は、まず剥ぎ取る土層面をきれいに掃除し、裏打ちの布をその面にしわがないよう張った後に、薬剤を布を透過するようにたっぷり塗り、それを乾燥させることで土が布にくっつく。その布がゆっくり丁寧に剥がすと土が

布と一緒にうすく剥がれて土層が転写される仕組みだ。

それを九歴に持ち帰り、余分な土や不要な部分を落とし、木の枠におさめると、展示に利用できる剥ぎ取りの完成。実物については、来年度の発掘速報展で展示する予定です。

是非ご期待下さい!



丁寧に剥ぎ取り作業を行う小林技師



剥ぎ取っちゃったぜ

『発掘新聞』休刊!

この「発掘新聞」は、昨年7月号刊行しましたが、復活を希望する多くの声を受け、今年1月より復活し、今号で前回は越える8号を刊行することができました。来年度発掘現場が再開しましたら、再び「発掘新聞」を発行したいと考えております。復活の時までしばらくお待ちください。

発行人 文化財調査室 大庭孝夫

当館のスターを目指して★★★

当館文化財調査室

小林啓(あきら) 技師

昨年4月に、文化財を後世に残すための業務を行う保存科学専門の学芸員として採用されました。名前は往年の日活の大スター“小林旭”と読みは全く一緒です。今回の古墳の土層剥ぎ取りはその積み土状況がよく分かるように仕上がる予定です。今後クリーニングを行うことで、当館の展示品のスター候補となること間違いなしです。来年度の発掘速報展での展示目指してがんばっています。ご期待ください。